



MESSAGE NOTES

苦悩から信頼へ

詩篇 13

ロイドフラハティ

1. 神様に自分の苦悩を正直に伝える: “いつまでですか、主よ?”

詩篇 13:1-2 主よいつまでですか。あなたは私を永久にお忘れになるのですか。いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。2 いつまで私は自分のたましいのうちで思い悩まなければならないのでしょうか。私の心には一日中悲しみがありません。いつまで敵が私の上におごり高ぶるのですか。

多くの人は、継続的な苦悩に疲れを感じます—個人的な試練だったり、世界の危機だったり、祈りの答えを待っている状態であったり。この詩篇の箇所は、信仰とは痛みを無視することではなく、私たちの痛みを正直に神様の前に差し出すことができるのだ、ということをおぼろげに思い出させてくれます。

2. 絶望の中で叫ぶ

詩篇 13:3-4 私に目を注ぎ私に答えてください。私の神、主よ。私の目を明るくしてください。私が死の眠りにつかないように。4 「彼に勝った」と私の敵が言わないように。私がぐらつくことを逆らう者が喜ばないように。

頼ることのできる安全な場所はどこにもないのでしょうか？人生の試練に圧倒されていると感じるかもしれませんが、この詩篇は次の5節で神様への信頼を宣言する方向に変わっています。

3. ターニングポイント: 神様のゆるぎない愛を信頼する

詩篇 13:5-6 私はあなたの恵みに拠り頼みます。私の心はあなたの救いを喜びます。
6 私は主に歌を歌います。主が私に良くしてくださいましたから。

私たちにも、今日、選択肢があります。苦悩によって神様から遠ざかるか、それとも答えがすべて分からなくても、神様を信頼して賛美することを選ぶか、です。

適用:

- もし自分が神様から遠く離れているように感じるなら、この詩篇から、強い信仰を持っている人でもこのような経験をし、それでも神様はそこにおられるのだ、ということをおぼろげに思い出してください。
- もし悲しみや不安な思いに苦しんでいるなら、それらを正直に神様の前に差し出しましょう。
- もし答えを待っているのであれば、信仰にとどまりましょう。見えなくても、神様の愛はゆるぎません。
- 世の中の悪いニュースで打ちのめされているのであれば、神様はそれでも全てを支配しておられることを知ってください。これまで神様がどれほど自分によくしてくださいましたかを思い出し、信頼と感謝の心で応答しましょう。